

A



【元祖 百人一首】

天智天皇

〈上の句…5・7・5〉

秋の田のかりほの庵の苫をあらみ*

〈下の句…7・7〉

わが衣手は露にぬれつつ

(実りの秋、田んぼの近くにある仮の小屋で寝ずの番をしていたら、屋根の編み方が粗いので、その編み目から夜露が落ちて、私の着物の袖は濡れているよ。)

* 百人一首の最初の歌。

問題1

①～③のくずし字(変体仮名)を読んでみよう。

広^{ひろ}ぶ^①を^を前^{まへ}^②お^お酌^{しゃく}は^は手^てを^をの^の^③し^し

天智天皇^{てんじ} 百人一首^{ひやくにんいつしゅ}

天智天皇^{てんじ} 百人一首^{ひやくにんいつしゅ}

問題2

④～⑥のくずし字のものと漢字(字母)をプリントから探してみよう。

④ わ ⑤ が 衣^え ⑥

天^{てん} ⑦ は ⑧ 露^{つゆ}

(尔^に 尔^に) 奴^ぬ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

川^{かわ} ⑬ ⑭

々^々 ⑮

↓おどり字

B



【元祖 百人一首】

式子内親王

〈上の句…5・7・5〉

玉の緒よ絶えねば絶えねながらへば

〈下の句…7・7〉

しのぶることの弱りもぞする

(命よ、絶えてしまふなら絶えておくれ。このまま生きたならば、恋心をこらえる気持ちが弱ってしまい、人目につくようになると困るから。)

* 後白河天皇の第三皇女。出家して一生独身を通したが、藤原定家とは恋仲だったとも伝わる。

問題3

⑦～⑫のくずし字(変体仮名)を読んでみよう。

た ま 逢 ふ 便 の 女 の ぢ け ま づ

⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

⑧ 便

⑨ 文

の

の

け

ば

問題4

⑬～⑮のくずし字のものと漢字(字母)をプリントから探してみよう。

あ の り の よ り も ぞ す る

⑬ ⑭ ⑮

し の ぶ る

乃 不

乃 与 八 利 毛 曾

⑮ ⑭

事 の よ は り も ぞ す る

解答

問題1…①「た(多)」、②「に(尔)」、③「ば(者)」
問題2…④「王」、⑤「可」、⑥「連」

問題3…⑦「に(尔)」、⑧「たより(多与利)」、

⑨「ふみ(不三)」、⑩「な(奈)」、

⑪「が(可)」、⑫「れ(連)」

問題4…⑬「志」、⑭「留」、⑮「春」

教材について

ねらい…くずし字を学びながら、古典を用いた〈遊び〉について考える。

時間配分…5分(『百人一首』の説明)

15分(問題1・2)、15分(問題3・4)

対象教科…国語、社会、書道

問題解説

今回扱った教材は、幕末の嘉永五年(一八五二)一〇月に江戸で刊行された勸善堂春水著『教歌道化百人一首』(中本一冊)です。

問題1 例の「ハ」は「は」となります。字母は「ハ」。①は「た」で字母は「多」。「た(多)」はくずし字一覧

を詠み込む工夫が見えます。言い換えれば、古典の『百人一首』を生活の一部に取り入れて〈遊び〉を楽しんでいるとも言えるでしょう。

問題3 ⑦は先述の②と同じです。⑧の「便」につくふりがなは「たより」です。「た(多)」のみが現代で用されるひらがなの字母と異なります。⑨の「ふみ」の「み(三)」は現代のカタカナと同じ字母です。⑩の「な」は現代のひらがなと字母は同じものの、現代の「る」と似ているので間違えやすい字体です。見分ける方法としては、現代の「る」の下丸い部分が大きく書かれることが多いです。⑪は先述の⑤と同じ、⑫も⑥と同じくくずし字です。

問題4 ⑬の字母は「志(し)」です。この字母は明治時代の活字印刷本にも見られます。⑭は現代のひらがなと同じ字母の「留」。⑮の字母は「春」。現代日本語では「しゅん」と読みますが、中国語に「すん」の音があることから「す」と読まれます。

図Bには、派手な笄を差した女性と猫が描かれており、彼女は遊女と思われます。歌には、たまにしか来ない想

表にありますように、ひらがなの「さ」の横線がないような形で書かれることが多いです。②「に(尔)」も頻出のくずし字です。ひらがなの「ふ」と間違われることが多いのですが、「ふ」のように一画目が右下に書かれず、左下に書くところが一つの特徴です。③の「ば」は「者」が字母の「は」に濁点。漢文の授業で「者」を「は」と読むことを学習したことがあるかもしれません。

問題2 ④の字母は「王」。日本では「おう」と読む「王」は中国語ではもともと「わん」の発音で、江戸時代でもふりがなは「わう」と記されます。そのため、「わ」と読まれます。⑤は「可」。小さい「の」に見えるため、「の」と間違われることが多いので注意が必要です。⑥は「連」、この字母も頻出します。

図Aの歌について、「広ぶた」は広蓋盆と呼ばれる浅いお盆で、料理などを乗せます。その広蓋盆を前にしてお酌をしようとすれば、衣の袖が濡れるという意味です。この歌意が面白いかどうかは人それぞれの感性と関わるかもしれませんが、生活の一場面を『百人一首』の下の句「わが衣ではつゆにぬれつつ」に合うように、上の句

い人からの手紙が長いため、堪え忍ぶ心が弱ってしまうという気持ちが詠まれています。元祖の和歌とは少々趣が異なる江戸風の歌と言えるでしょう。

教材解説

『百人一首』は現代でも教科書やカルタなどを通して親しまれる古典文学ですが、日本で最も広く読まれ、数多く出版されたのは江戸時代でした。今回扱った『教歌道化百人一首』(底本は三宅宏幸所蔵本)は、『百人一首』の上の句を当世風の狂句に変え、下の句はそのまま生かし、面白おかしい教訓歌に仕立てた狂歌百人一首です。したがって、パロディ化された上の句の解釈を考える際に、下の句が解答者の手がかりとなります。取り上げた二首は、小学校三〜四年生の検定教科書を参考にしましたので、「聞いたことがある」と生徒の反応が返ってくるかもしれません。

詳細は「くずし字による古典教育の試み(4)」―教科書教材としての『百人一首』から『教歌道化百人一首』へ―(203頁に書誌を記載)をご参照ください。

(担当…加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸)